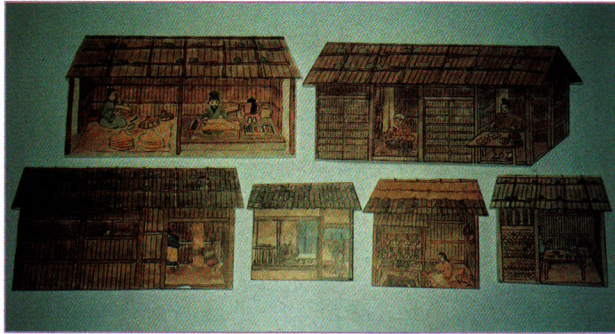


調べてみよう！



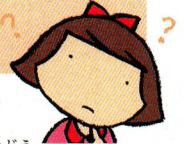
どんな家に住んでいたのかな



① 当時の家（想像図）



これは何だろうね。
どのように使われて
いたのかな？

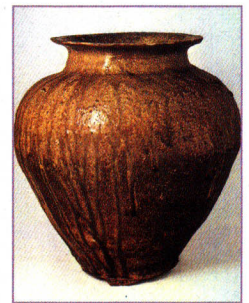


800年前、この場所には、「奥大^{おくのたいどう}道」という
南北に通る道路があり、その両側には掘建柱^{なんぼくとお どうろ りようがわ ほったてばしら}
建物といわれる家々が立ち並んでいました。

家の裏には、井戸が掘られていて、溝や道路跡なども見つかります。きちんとしたまちづくりがなされていたようです。

どんなくらしをしていたのかな

荒井猫田遺跡^{あらいねこたいせき}からは、中国や岐阜^{ちゅうごく ぎふ}県、愛知県^{はこ}などから運ばれてきたつぼや皿などの焼き物が数多く見つかります。また、中国で作られたお金もみつかります。お金を使ってものを売ったり、買ったりするようになったのもこのころだといわれています。いろいろな地方との交流が行われていたことがわかります。



① 常滑焼きのつぼ

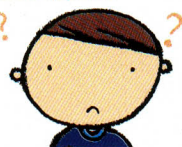


① 木簡



① 茶臼

これは、
そのころ
使われていた
道具だよ。
何に使われて
いたのかな？



石^{いし}できている「茶臼^{ちやうす}」は、お茶の葉^はをひいて粉^{こな}にして、抹茶^{まっちゃ}を作る道具です。

「木簡^{もくかん}」は文字の書いてある板の総称^{そうしやう}です。この木簡は、書いてある文字から、おまじないやお祈りなどに使われていたことがわかりました。

このころの人々は、どんなくらしをしていたのでしょうか。800年前の町並み^{まちな}をくわしく調べてみましょう。



- 荒井猫田遺跡 郡山市字川向（※今は見ることができません）
 - 郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 郡山市本町1丁目20番22号 ☎024-934-8358
 - 身近にある地名で、「館」「堀之内」の地名を探してみよう。
- （当時屋敷のあった場所が、現在も地名として残ったものなのです。）